

# (町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

# 1 醍醐寺からの眺望景観

## 【周辺の特徴】

- ・旧奈良街道沿いは、醍醐寺の伽藍や塀と街道沿いの松並木や古民家が一体的な景観を形成している。
- ・境内から松並木越しにマンションの一部が見える場所もある。
- ・醍醐山を背景に周囲の樹木と一体化しているが、境内の林の一部が自然災害によって失われ、金堂や五重塔に向かう参道から住宅地が見える。



1-1 総門から西への眺望  
：旧奈良街道沿いの松並木のほか、門前に建つ住宅などが見える。



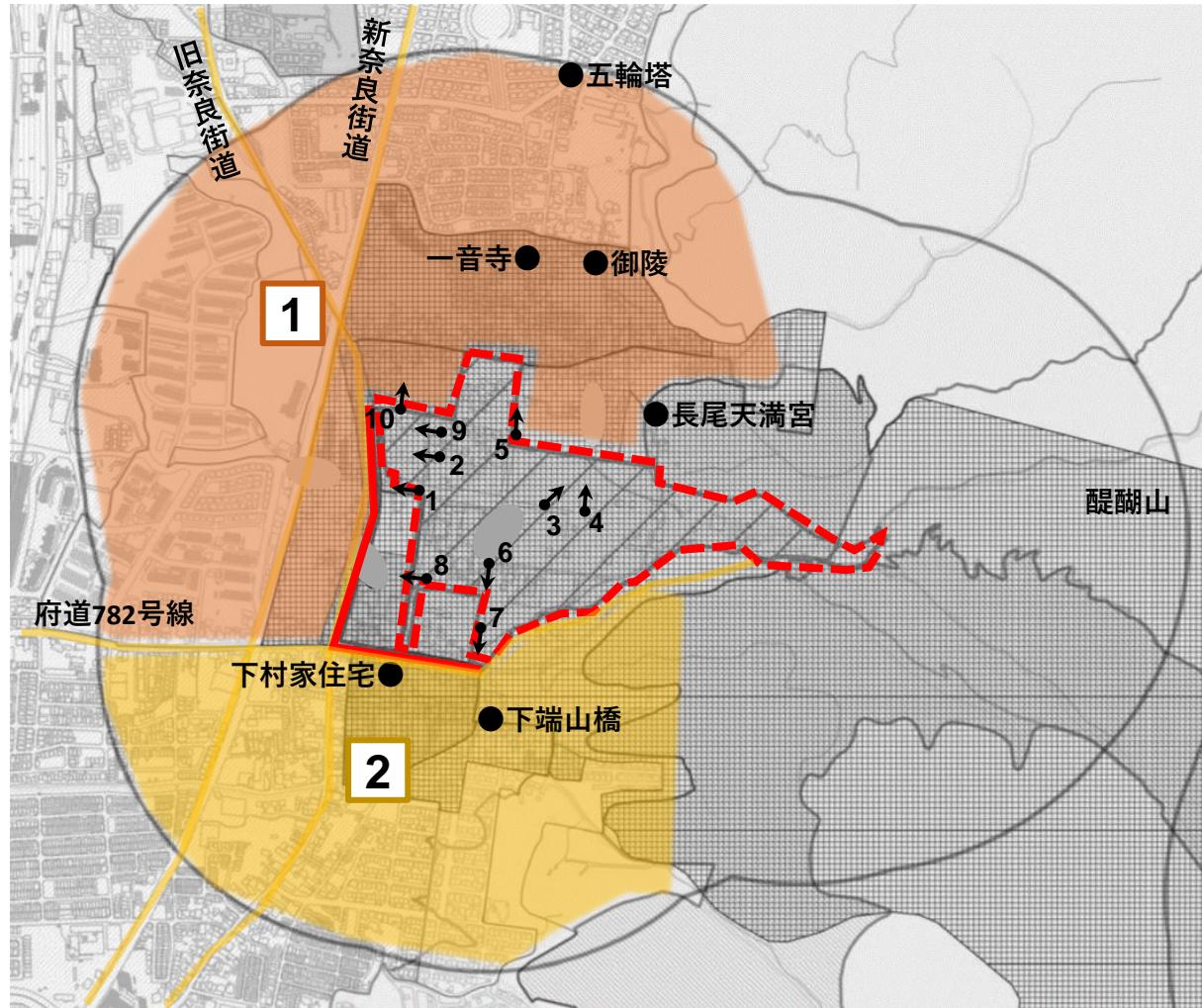
1-2 三宝院売店の北側から西への眺望  
：旧奈良街道沿いの松並木の間から、マンションの一部が見える。



1-3 参道から北東への眺望  
：醍醐山を背景に、長尾天満宮の鳥居やその参道のほか、住宅などが見える。



1-4 金堂から北への眺望  
：境内北の住宅が見える。



1-5 北門から北への眺望  
：門前に新旧の建築物が見える。



1-6 光台院前から南門への眺望  
：境内の南東の建築物の一部が見える。



1-7 南門から南への眺望  
：門前の建築物が見える。



1-8 報恩院付近から西への眺望  
：旧奈良街道沿いの建築物の背後に大岩山が見える。



1-9 憲深林苑入口・修証殿から西への眺望  
：旧奈良街道沿いのマンションの一部が見える。



1-10 寺務所から北西への眺望  
：境内北の住宅が見える。

## 2 醍醐寺周辺の景観

### 【周辺の特徴】

- ・旧奈良街道沿いは、町家や土塀のある古民家等が断続的に続き、寺院と街道が交わる風趣ある佇まいを醸し出している。
- ・江戸時代から明治時代に建てられた伝統的な農家住宅や町家が今も多く残る。一方で、周辺は宅地化されている。



2-1 旧奈良街道から北への眺望  
：醍醐寺の塀や松並木と一体的に住宅が見える。



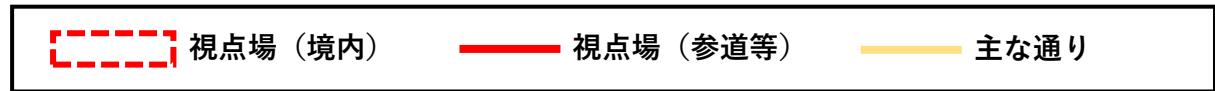
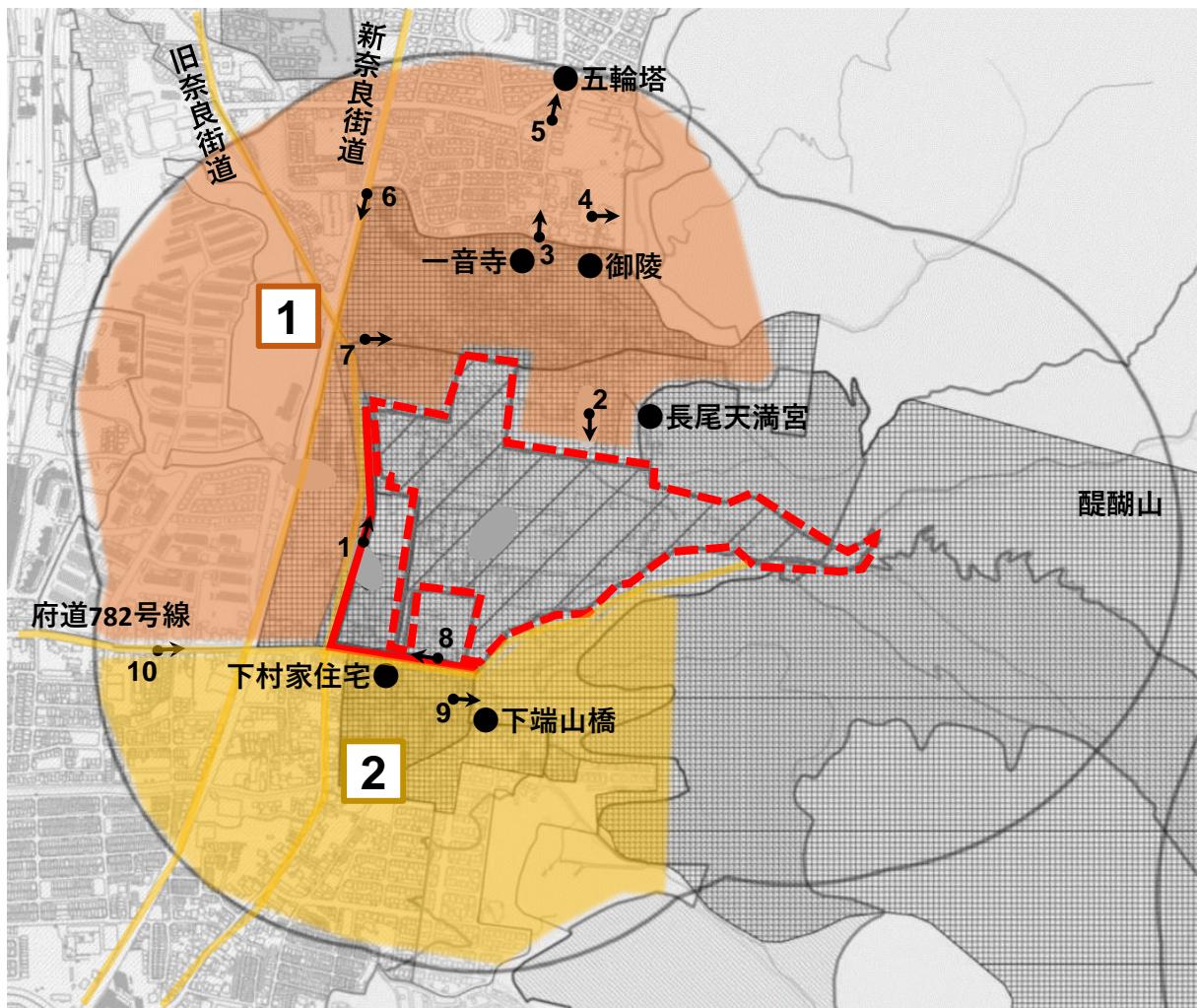
2-2 醍醐寺北側の宅地から南への眺望  
：醍醐寺の金堂や長尾天満宮の参道と一体的に住宅が見える。



2-3 北門参道から北への眺望  
：門前に並ぶ新旧の建築物が見える。



2-4 北門参道の東側路地から東への眺望  
：古民家が残っているのが見える。



2-5 北門参道から北への眺望  
醍醐北団地の住宅と五輪塔が見える。



2-6 新奈良街道から南への眺望  
：新しい建築物が立ち並んでいる。



2-7 旧奈良街道東側から東への眺望  
：古民家が残っているのが見える。



2-8 府道782号線から西への眺望  
：醍醐寺南側の門前に並ぶ古民家が見える。

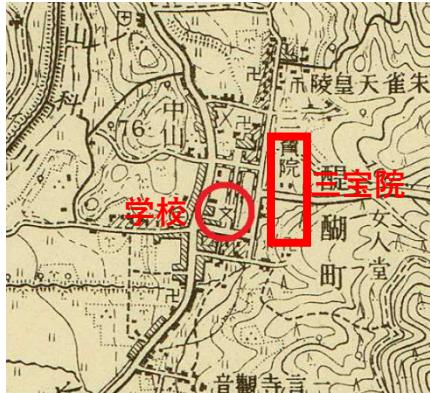


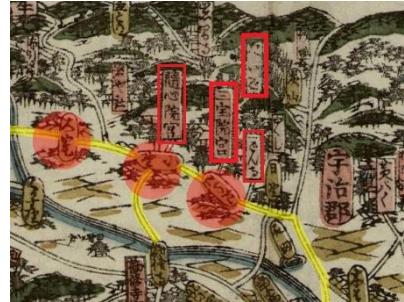
2-9 下端山橋から東への眺望  
：古民家が残っているのが見える。



2-10 新奈良街道西側から東への眺望  
：醍醐山を背景に古民家が見える。

### 3 醍醐寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 醍醐寺西北側		参考写真等	
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧奈良街道は平安期の醍醐寺創建後に門前集落の形成が進み、京都一奈良間の交通の要衝として発展した。真言宗醍醐派の総本山門前であり、街道の要衝であることが醍醐村を繁栄させた。</li> <li>明治5年(1872)に醍醐寺三宝院に宇治第一校(現京都市立醍醐小学校)が開校した(図3-1)。</li> </ul>	 <p>3-1 「京都東南部」昭和7年(1932)</p>	
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>醍醐寺、三宝院前の旧奈良街道沿いは、境内の築地塀や松林等の組み合わせが整った景観構成を見せており、これらに呼応するように、街道の集落側には町家、土塀のある民家等が断続的に続き、寺院と街道が交わる風趣あるたたずまいを醸し出している。</li> <li>醍醐寺の北側に位置する朱雀天皇醍醐陵付近は、遅くとも明治時代には宅地化していた地域で、醍醐寺北門に続く道沿いに古民家が残っている。一音寺の堀や御陵への参道と古民家の町並みが特徴的である。</li> <li>醍醐天皇後山科陵周辺は、宅地開発されて醍醐北団地となっており、戸建住宅等も多く立ち並ぶ。</li> <li>旧奈良街道の西側に位置する新奈良街道以西は、戸建て住宅や集合住宅が立地する。</li> </ul> <p><b>文化財等：</b>しも村</p>	 <p>3-2 旧奈良街道の町並み</p>	
ウ 景観形成方針	醍醐寺周辺特別修景地域	風致地区	山ろく型建造物修景地区
	醍醐寺門前では、歴史的な町並み景観との調和を図る。醍醐寺境内周辺では、境内の緑豊かな景観と一体となった町並みを保全する。	醍醐・日野地域は、東西の山地が接近し、その中間に独立丘(中山)があり、緑豊かな地形が形成されている。	醍醐寺をはじめとする歴史的資産と山ろくの自然景観が調和した良好な景観と住環境の維持増進を図る。
エ 建築計画等に求める配慮事項	周辺景観に配慮した日本瓦ぶき和風外観とする。門前では既存樹木の保全を図る。境内周辺では、敷地規模を維持し、道路側には生垣又は和風塀を設ける。	醍醐山の山地部が優れた自然景観を有しているため、これらの風致の維持を図る。	建築物は勾配屋根を設けるとともに、壁面の色彩にも自然との調和を旨とする暖色系の自然素材色を用い、まとまりのある町並み景観を形成する。
			 <p>3-4 新奈良街道以西の集合住宅</p>

2 醍醐寺南側		参考写真等	
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧奈良街道は平安期の醍醐寺創建後に門前集落の形成が進み、京都一奈良間の交通の要衝として発展した。また、隣村との往来にも必要な生活路でもあった(図3-5)。</li> <li>平成9年(1997)に京都市営地下鉄東西線の二条一醍醐間が開業し、醍醐駅が開設された。</li> </ul>	 <p>3-5 「嘉永改正新選京繪圖」嘉永5年(1852)</p>	
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>醍醐寺を中心として旧奈良街道沿いに門前町が発達したとみられ、沿道には町家、土塀のある古民家等が断続的に続いている。</li> <li>上醍醐に続く道である府道782号線周辺は、早くから宅地化されており、江戸時代から明治初期にかけて建てられた建物が今も残っている。醍醐寺の黒門、南門とその門前の通りの景観が一体的な景観を形成している。</li> <li>府道782号線南側の路地には寺院や古民家があり、一部畑や農道が残っているところもある。万千代川より南は、丘陵を宅地開発して整備された住宅地となっており、戸建住宅が建ち並ぶ。</li> </ul> <p><b>文化財等：</b>下村家住宅(主屋、戌亥蔵、辰巳蔵、離れ)、山田邸</p>	 <p>3-6 旧奈良街道の町並み</p>	
ウ 景観形成方針	醍醐寺周辺特別修景地域	風致地区	山ろく型建造物修景地区
	醍醐寺門前では、歴史的な町並み景観との調和を図る。醍醐寺境内周辺では、境内の緑豊かな景観と一体となった町並みを保全する。	醍醐・日野地域は、東西の山地が接近し、その中間に独立丘(中山)があり、緑豊かな地形が形成されている。	醍醐寺をはじめとする歴史的資産と山ろくの自然景観が調和した良好な景観と住環境の維持増進を図る。
エ 建築計画等に求める配慮事項	周辺景観に配慮した日本瓦ぶき和風外観とする。門前では既存樹木の保全を図る。境内周辺では、敷地規模を維持し、道路側には生垣又は和風塀を設ける。	醍醐山の山地部が優れた自然景観を有しているため、これらの風致の維持を図る。	建築物は勾配屋根を設けるとともに、壁面の色彩にも自然との調和を旨とする暖色系の自然素材色を用い、まとまりのある町並み景観を形成する。
			 <p>3-7 府道782号線の町並み</p>
			 <p>3-8 万千代川の南の住宅地</p>

- 3-1 「京都東南部」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-5 「嘉永改正新選京繪圖」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)